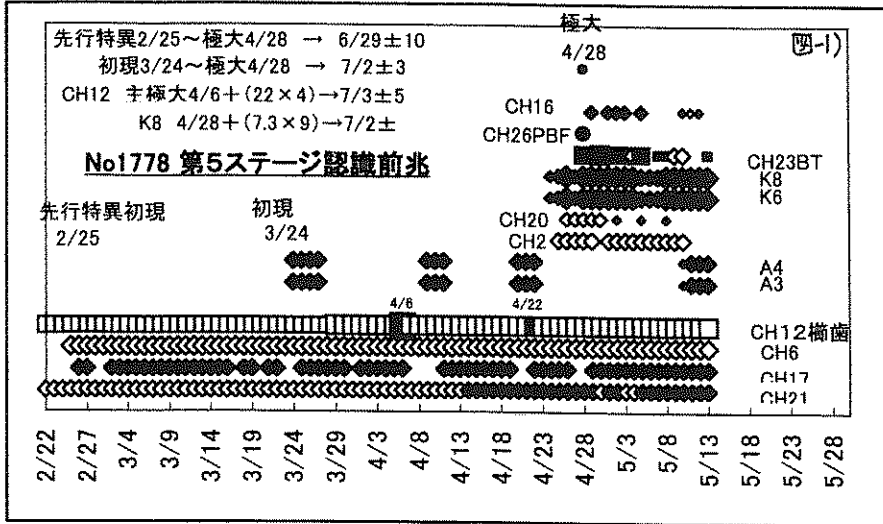


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No1778 近畿圏領域地殻大型地震推定前兆 続報 第5ステージ前兆



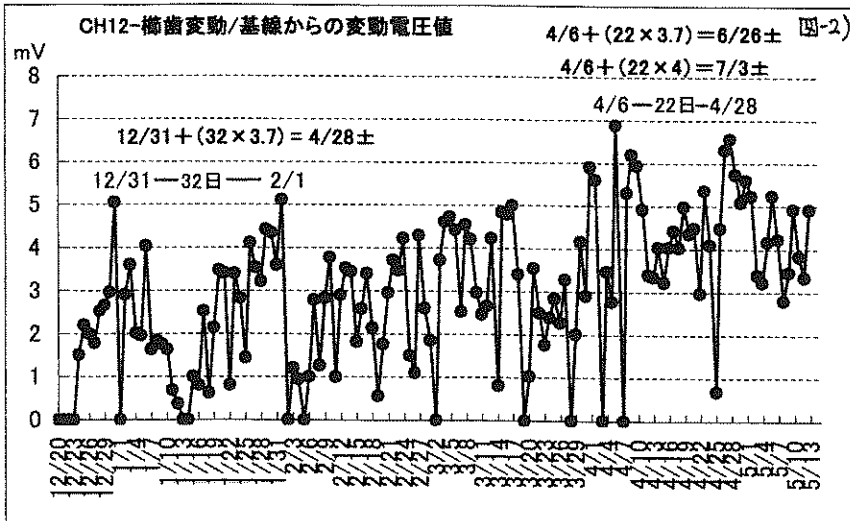
No1788前兆一観測歴上最長継続(4年10ヶ月継続中)の特殊前兆。近畿圏領域地殻大型地震の可能性が示唆される。2013年4/28±から第5ステージ突入認識。以下は左図の解説

図-1) No1778前兆 第5ステージ認識前兆

2012年05月からの第4ステージ前兆の変化から(経験則を使用して)2013年4/29±時期が示唆されました。4/28にCH26にPBF出現が観測され、この4/28からCH16に特異状態が、CH23には基線幅増大BTが出現し、4/28±が極大認識できます。また4/28±頃より前兆出現数が増加しています。

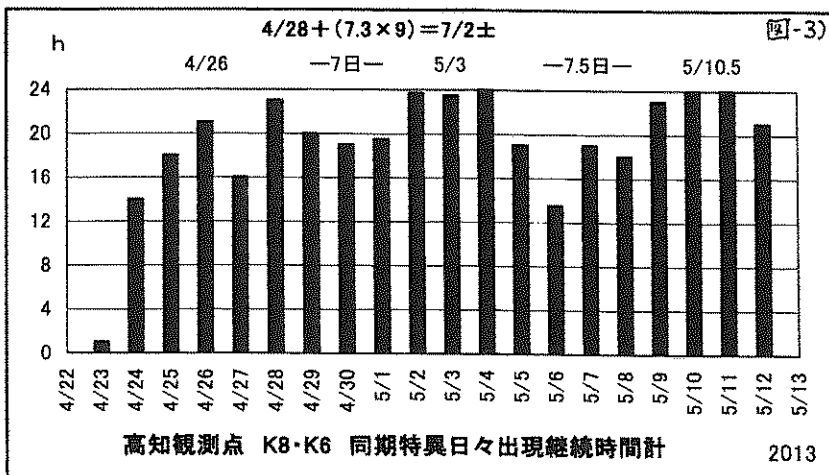
3/24から断続的に秋田観測点A3, A4に特異状態が出現しましたが、5/10夜から再出現が観測され、継続認識。このA3, A4特異が4/28極大に対する前兆初現である可能性を考えてみました。またCH6に顕著な特異が継続出現した2/25を先行特異初現の可能性として考えてみました。その結果は、どちらも本年07月初旬時期を示します。

図-2) 八ヶ岳CH12櫛歯前兆 変動値変化



八ヶ岳のCH12には、昨年2012年12/25から櫛歯状の変動である地殻地震特有前兆が出現しています。左図のとおり、2012.12/31と2013.2/1に同値のピークが認められます。地殻地震前兆特有の副極大型前兆認識をしますと、主極大12/31、副極大2/1 極大間Tps=32日。両極大が同値の場合⇒Tmap:Tps=3.7:1 先の主極大が鋭い型の場合⇒Tmap:Tps=4:1 経験則有(2000年発行の地震予報に挑む/PHP新書191頁参照)。2012.12/31と2013.2/1の極大の関係からは、2013.4/28±が計算され、極大時期と一致します。その後は、4/6と4/28に高い値が観測され、4/6が鋭い形です。Tmap:Tps=4:1 経験則を使用しますと、7/3±が計算されます。

図-3) 高知観測点 K6, K8同期特異継続時間



4/23深夜から出現した高知観測点のK6 K8同期特異は、4/28±を中心に出現し、その後終息する可能性と見ていましたが、実際は継続中。長時間継続出現日の間隔を、BTの周期性経験則(周期性無しピーク+平均周期の6又は9倍値=発生日±)を参考にして見てみますと、また短い期間ですが、7/2±が計算できます。(続きは次頁へ)

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 近畿圏領域地殻大型地震推定前兆 続報 第5ステージ前兆

2012年11月発行のPHP新書「地震予報」に詳しく記しましたとおり、2008年7月初旬から前兆が出現継続いたしました、No.1778前兆は、本年7月初旬で満5年の前兆継続となります。

2008年の岩手宮城内陸地震の前兆期間が3年3ヶ月であり、これを遙かに上回る前兆継続期間の長さには驚嘆しています。またそれだけでなく、前兆形態の異常さにも驚嘆します。2008年から2013年春までに4段階の前兆群が識別され、今回第4ステージ前兆から示された4/29±=実際には4/28から第5ステージに突入したと認識されます。

やはり経験則とおり、地震発生直前には、殆どの前兆が終息する必要がある様です。今回の第5ステージ前兆群認識は、4/28にCH26にPBF前兆が出現し、この時期から基線幅増大BTや特異状態等が顕著に出現し、明らかに次ステップに移行したことが認識されます。

今後を観測しないと、明らかにはできませんが、最短の場合を考え、4/28の第5ステージ前兆群の極大に対し、第4ステージ前兆群の中に、先行特異や前兆初現として該当する変動が見いだせないかと試みました。

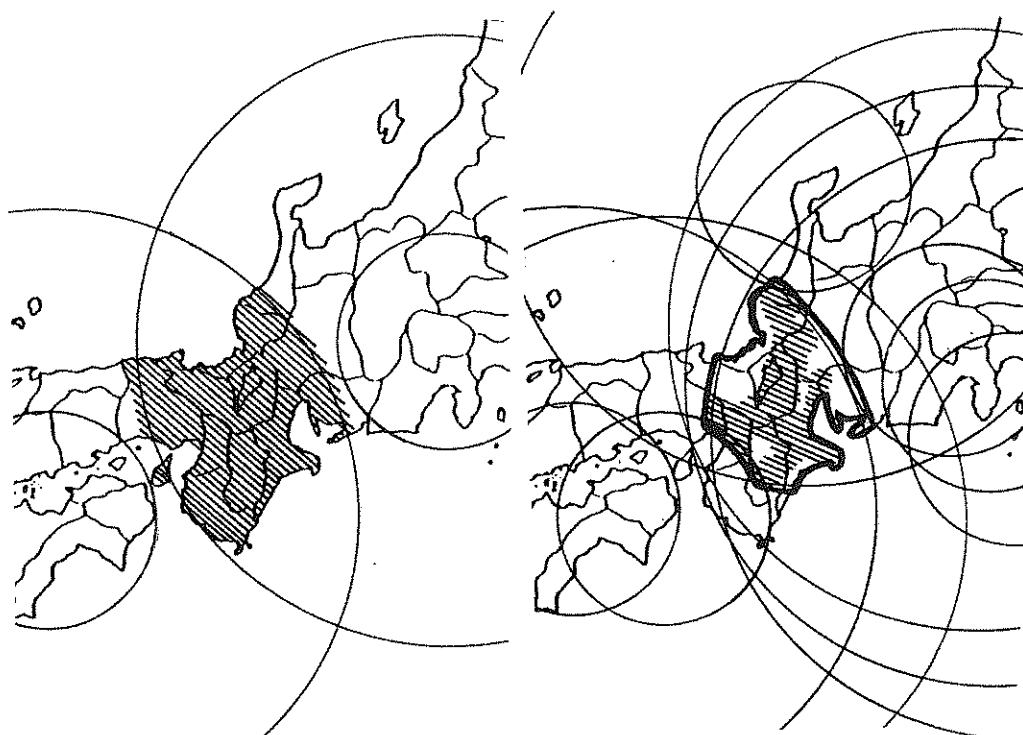
前頁図のとおり、CH12櫛の歯とCH21はかなり以前から継続出現しています。CH21はNo.1778前兆の初期の頃より継続出現していますので、変化は識別困難です。CH12櫛歯前兆は2012年12月25日からの出現です。従いまして、仮にCH12櫛歯初現を先行特異初現として4/28極大と対応させますと8/30±が計算され、また2012.12/25を前兆初現として4/28極大に対応させますと、12/14±等が計算されることとなります。実際にどうなるかは

今後を観測しないと明らかではありませんが、今回は、最も早い場合を仮定して、前頁の図-1) に示した様な認識をした場合の推定を記したいと思います。

早い場合の認識仮定に基づく推定

- ①前兆初現 2013.3/24~極大2013.4/28 T_{fap}:T_{map}=20:13 使用
推定発生⇔ 7/2±3
- ②先行初現 2013.2/25~極大2013.4/28 初現・極大・終息=1:1:1 棚
推定発生⇔ 6/29±10
- ③CH12櫛歯主極大4/8 副極大4/28 T_{ps}=22 T_{map}:T_{ps}=4:1 使用
推定発生⇔ 7/3±
- ④K6K8同期特異 BT経験則使用 4/28+(7.3×9) ⇔ 7/2±

上記のとおり、本年7月初旬時期の可能性が複数から示唆されます。7月初旬推定の現認識と理解が仮に正しい場合でも、7月初旬に対応地震発生となるのか、更に第6ステージ前兆群に移行して継続するのは、現段階では断定困難です。但し、現認識が仮に正しい場合には、①の前兆終息時期が6/16±と計算できますので、この時期に前兆が終息するか否かを確認することが重要です。そして仮に6/16±時期に前兆終息が認められ、その後、顕著な前兆が継続しない場合は、上記時期に対応地震が推定されることとなります。但し、今後更に前兆極大が出現する等した場合は、終息時期等も変わりますので、今後の前兆変化を観測し、解析を進めたいと考えます。過去例の無い初めての前兆出現形態のため、苦慮しておりますことをご理解下さい。



左図A = 大枠推定領域 (影響局確定2局使用)
左図B = No.1778前兆中の100w 推定影響局使用の参考推定領域図、斜線領域は歪み速度遅い参考推定領域を示す

- 推定領域:
大枠=左図A斜線領域
参考=左図B太線域内
斜線域は更に参考領域
- 推定規模: M7.9±0.5 (陸域の浅い地殻地震)
- 推定時期:
早い場合=7月2日±2 (但し6/16±前兆終息の場合)
遅い場合=今後の観測が必要
- 推定発生時刻:
午前9時±2 or 午後6時±2

※公開続報No.21,22 = FAXによる実験観測情報No.2375-1/2 2/2 の一部を使用。
今回のNo.23, No.24 = FAXによる実験観測情報No.2382-1/2 2/2 の一部を使用
させて戴きました。ご了承下さい。

※現認識が間違っていた場合は、今後の情報で修正させて頂きます。